

女は蛇に言った。『私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。しかし、園の中央にある木の実について、神は、「あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ。」と仰せになりました。』
創世記3:2-3

今日は、エバの答えを調べてみましょう。

『私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。』
エバは親しくしていた蛇の巧みな問いかけに、まるで自分が直接神から命令をいただいたように秩序に反して答えました。心に悪はなかったけれど、自由意志があったので、私もこれくらいは認められている存在ですという誇る気持ちがあったのです。そして、善悪の知識の木に対する警戒心がゆるくなり、善悪の知識の木だけは例外という事実がエバの心から曖昧になりました。

「しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」
[創世記2:17]

エバはこの神のことばに「それに触れてもいけない。」という言葉をつけ加えました。また、「必ず死ぬ。」と言われたことばを「死ぬといけないからだ。」に変えました。「死ぬといけないからだ。」とは、「死ぬこともあるけれど、死なないこともある」という意味になります。
サタンの罠にかからない為に、私たちは神のことばを適当にではなく正確に知らなければなりません。エバは「必ず死ぬ。」といわれたみことばを心に留めなくて、結局、霊的な死に至りました。



神様、私の心に高ぶり、おごりはないでしょうか。主の愛の中で仕えるものとなり救いの門に入る者となりますように。

そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。
すると、試みる者が近づいて来て言った。『あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。』
イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」

（マタイ4：2-4）

エバは蛇を操るサタンの策略が何か見抜いて、神のことばできっぱりと退けるべきでした。しかし、エバは正確に神のことばを心に刻んでいなかった為に、神のことばを勝手に変えて答えてしまいました。
それでは、イエス様の場合はどうだったのでしょうか？

イエス様が公生涯の働きを始められる前、悪魔に三度試みられました。
悪魔は石をパンに変えて神の御子であることを証明するよう挑発しましたが、ご自分を思い通りに操り悪魔の奴隷にしようとする策略に対して、イエス様はみことばできっぱりとその試みを退けました。イエス様はご自身の力を誇ろうとする心が全くなかったため、神のことばで悪魔の試みに勝利されました。

神様は何故サタンの存在を許されるのでしょうか？
サタンは、私達に罪を犯させようとしています。サタンの働きによって、私達は、自分の中にある汚れたもの、捨てるべき物を悟ることができます。サタンの思いを完全に捨てさり、自由意志をもって神の御前に出てくる子供を神様は望んでおられるのです。結果的にサタンは、神の子供達が聖められるのに必要な働きをしているのです。



主よ。私の足の灯となるみ言葉を与えてください。
わたしの心がまもれますよう。聖霊様力をください。



そこで、蛇は女にいった。「あなたがたは、決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

創世記 3 : 4-5

エバが神のことばを変えて答えると、蛇は更に深い策略をかけてきます。

「あなたがたは、決して死にません。」

蛇は、必ず死ぬといった神のことばを真正面から否定しました。

蛇にははっきりとした真理に逆らう姿があります。

靈的に少しでも目をさましている人であれば、サタンの策略を見抜くことができます。その時は果敢に断固として退けなければなりません。

サタンのおとり

更にサタンの神に対する敵対心が表れ、エバに「神のようになる。」というおとりを投げかけます。エバはサタンが投げかけたこの言葉を退けないで、受け入れてしまいました。するとその瞬間、「欲」という罪の性質が心に入ってきて、からだと結びついて「肉」が生まれました。

エバがサタンの惑わしを受入れた背景にはアダムとエバは長い間、地球とエデンの園で最高の権勢を持って生きていましたが、変化がないという停滞感を感じていました。新しいもので満たされたいという心があったのです。

靈的なことを慕い求める生活のなかで心に留めること

肉的な平安や安定は靈的な安逸につながり、サタンの誘惑や惑わしを受けやすくなります。靈的なものを慕い求めながら、いつの間にか高ぶりが生じ秩序を犯す危険を避ける為には、いつも自分の心を見張り、心の割礼をすることが必要です。



自分の義と枠を砕き、靈の恵みを慕い求める者になりますように

